

令和 7 年度 事業報告書

伏見いきいき市民活動センター

【指定管理者：MACHISHIGOTO 合同会社】

1. 管理運営の状況

施設運営業務

(1) 職員体制

センター長 1 名、職員 6 名（常勤：2 名／非常勤：4 名）

【人材育成の取組】

- ・ 職員研修を 2 回開催し、接遇マナーや、個人情報の取扱いをテーマにしました。
- ・ 京都市から共有された「ヘイトスピーチ解消法説明会」の開催記録を、職員に回覧しました。
- ・ 新たに採用した職員に対し、センターの管理運営について研修を行いました。
- ・ 年 2 回、職員と個人面談を行い、目標の設定と達成度の評価を行いました。
- ・ 職員の業務等に関する相談は随時受けています。
- ・ 月一回の定例会で、事業進捗、管理運営の共有などの情報交換を行いました。

(2) 貸館等

ア 利用件数（月別）

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
239	260	273	245	240	259	311	294	255	242	266	282

（年間）3,166 件（前年度比 103%）

イ 利用状況

- ・ 昨年度に比べて、全体の件数が増加しました。9 月以降前年度と比べると毎月約 20 件、月によれば 30 件増加している月もあります。昨年度も音楽室のご利用は当日予約もありましたが、今年度はとくに 201 の部屋で音楽利用（アンサンブル）をされる方が増加しています。また、音楽室が埋まっている場合でも、利用をやめずに 201 号室を利用される方がいることも、件数の増加につながっていると考えられます。
- ・ 昨年度から館外の歩道に面した掲示板による広報の効果もあり、掲示板を見て団体登録される方がありました。中でも、お一人で演奏練習をされる方の登録もありました。
- ・ また、コロナ禍以降地域で出演される利用団体も増加してきており、長時間演劇やダンスの練習で使用される団体も多かったです。
- ・ 一方でこれまでは、毎日のように集会室のご利用が入っていましたが、定期利用されていた方が本館の利用に移られ、曜日によっては終日利用がない日もあります。メンバーさんの高齢化や、代表者の環境の変化も影響していると考えられます。

ウ 利用促進に向けた取組

- ・ センター2 階の窓を利用し、国道 24 号線を通行される方に向けた掲示物を大きくリニューアルしました。これまでの文字のみの掲示から、新たにダンスのシルエット画像や「鏡のお部屋」といった設備を示す言葉を追加し、どのような活動ができるのか分かりやすく改善しました。さらに、車や遠方からの視認性も考慮して電話番号を大きく明記することで、興味を持った方がその場ですぐに連絡できる導線を整えました。この工夫により、近隣のガソリンスタンド等で掲示を見た方から「音楽室が利用できると知った」「部屋のレンタルができることを知った」と直接お問い合わせをいただくなど、実際の利用につながる確かな成果がありました。
- ・ センターのリーフレットを、伏見区内の福祉施設や保育所、関係機関へ幅広く配架し、潜在的な利用層に向けた広報活動に努めました。

エ その他

サロン利用者（延べ）：2,544 名（昨年度：2,691 名）

- ・ 全体の利用人数は昨年度と比較して減少しました。主な要因として、昨年度まで実施していた特定の「〇〇さんの日」の活動が終了したことが人数の減少に影響していると推測されます。
- ・ 一方で、今年度新たに始動した「おしゃべりサロン」が気軽な立ち寄り口として機能し、ここを入り口として初めて来館された方が、その後複数のグループ活動へ継続的に参加されるなど、活動の幅を広げる好事例が生まれました。
- ・ また、サロン利用者からは「堅苦しい指導の場ではなく、各々がゆるく楽しく過ごせる心地よい空間」との声が寄せられています。利用者がプレッシャーや負担を感じることなく、自身のペースで活動に参加したり、日中を過ごしたりできる場所として定着していることが確認できました。
- ・ 多世代交流の促進に向けては、未就学児親子の居場所「にこにこルーム」において絵本の読み聞かせイベント等を実施し、親子連れが日常的にサロンを訪れやすい環境づくりにも取り組みました。

(3) 情報発信等

ア 取組実績

- ・ SNS（Facebook、Instagram）を活用し、主催事業の様子や貸館情報などを定期的に発信しました。

- ・ SNSでの発信においては、事業の連携先や地域イベントに出演した利用団体のアカウントをタグ付けすることで、センターの単独発信ではアプローチが難しい層への情報到達を図りました。
- ・ 伏見区内で活動する市民団体を支援するため、活動に役立つ各種助成金の情報発信を行いました。
- ・ 利用者から別館（集会室）への行き方に関する問い合わせが多く寄せられたため、本館から別館へのルートを案内する動画を作成し、SNSで配信しました。併せて、本館入口にも分かりやすい案内掲示物を設置しました。

イ 取組の効果

- ・ 事業に関する発信では、イベント当日の様子だけでなく、事前の打ち合わせや交流会などの「プロセス（過程）」も継続的に発信することで、事業の背景や魅力をより深く伝える工夫を行いました。その結果、事前交流会の投稿に対して SNS 上で好意的なコメントが寄せられるなど、利用者との双方向のコミュニケーションが生まれました。
- ・ さらに、これらの情報発信が広範に届き、当センターの SNS をご覧になった愛媛県教育委員会（社会教育課）から、事業内容や施設運営に関する問い合わせを受けるなど、広域的な認知の向上につながり、他自治体への情報発信も実現できました。

(4) その他

- ・ センター周辺のバス停留所に、バス待ち時間などに利用できる「休憩所」として当センターを開放している旨の案内を掲示しました。また、館内に新たに「給水スポット」を設置したことで、暑さ対策や休息目的など、これまでの貸館利用団体とは異なる新たな層の方々に来館していただくきっかけとなりました。
- ・ 地域連携の一環として「藤森竹田児童館連絡会議」に参加しています。センターを利用する子どもたちの様子についての情報交換や、藤森・竹田地区で活動する学生団体に関する情報共有を行い、地域機関とのネットワーク強化に努めました。
- ・ 竹田小学校2年生の児童が、授業の一環として当センターへ施設見学に訪れました。センター長から施設内の案内や日頃の業務内容について説明を行い、地域の子どもたちに公共施設の役割や市民活動について知っていただく貴重な機会となりました。
- ・ 大学などの教育機関と連携し、地域における学生の活動コーディネート（龍谷大学政策学部「Ryu-SEI GAP」など）のサポートや、関連する活動への出席を継続的に行いました。

【事業名】地域ボランティアの社会見学プロジェクト

事業の概要

開催日時：2025 年 5 月～2026 年 2 月（全 4 回） 別途事前交流会を 4 回実施

開催場所：伏見いきいき市民活動センター、原田ファーム、みんなのカフェちいろば、藤森神社、南部公園

参加人数：延べ 29 名

協力団体等：原田ファーム、深草子ども食堂 実行委員会、藤森子どもまつり実行委員会、南部公園愛護協力会

予算／決算：予算：1,820,000 円 / 決算：1,824,041 円

1 事業内容

昨今、地域活動団体から、担い手不足を解消したい、参加者を増やしたいといった相談を受ける機会が増えています。一方で、学生や定年退職後のシニアなど、ライフスタイルの変化を機に「何か活動を始めたい」「一歩踏み出したい」という声も多く聞かれます。しかし、そうした方々の中には、「一度参加すると継続しなければならないのではないか」「まずは少しでも活動をのぞいてみたい」「一人で新しい場所に飛び込むのは不安」という思いを抱えているケースも少なくありません。そこで、誰もが気軽に地域活動への最初の一歩を踏み出せる機会を提供することを目的に、伏見区内の活動団体の様子を見学し、運営者の思いを直接聞くことができる体験会を実施しました。

2 準備段階での工夫

活動への参加に不安がある方でも安心して参加いただけるよう、体験日の前に交流会を開催しました。単なる情報伝達に留まらず、活動先の背景や思いを事前に共有することで、当日をより実りある時間にできるよう工夫しました。

地域の団体とは事前の打ち合わせを重ね、参加者の継続的な関わりを視野に入れたプログラムを構築するなど、地域の思いともマッチするよう心掛けました。

広報においては、既存の媒体に加え、スタッフが地域に直接赴き説明を行う「顔の見える広報」を徹底しました。これにより、潜在的な関心層の懸念を個別に解消し、参加への動機付けを行いました。

3 事業実施による効果・達成度

（１）当初の事業効果、目標等

社会貢献や地域活動への関心がそれほど高くない方でも気軽に参加できるよう、ハードルの低いジャンルを選定し、多様な層の参加を促すことを目指しました。具体的には、伏見区内の活動団体4団体との連携、および延べ25名の参加を目標としました。また、事後アンケートにおいて「継続して参加してみたい」と回答する方の割合を8割以上とすることを数値目標として掲げました。

（２）事業実施による目標の達成度

今年度は「子ども」や「健康」というテーマのもと、農業体験、子ども食堂、地域のおまつり、緑化活動を行う4団体と連携し、体験プログラムを実施しました。その結果、延べ29名にご参加いただきました。参加者の年齢層は10代～80代と幅広く、ご夫婦での参加やご友人同士、お一人での参加など形態も多岐にわたり、多世代交流が実現しました。

事後アンケートでは、満足度が「とても満足」75%、「満足」20%（計95%）と非常に高く、当初掲げた数値目標を達成することができました。また、参加者のうち約58%が、「参加者同士で交流・活動を行うイベントへの参加が初めて」と回答しており、本事業が「一歩踏み出す」きっかけとして一定の役割を果たしたと言えます。さらに、参加動機の第1位が「一度試しに覗いてみたかったから／一度試しにやってみたかったから（約30%）」であったことから、当初の狙い通り、心理的なハードルを下げた気軽な参加機会を提供できました。

加えて、連携先の団体からも、「大人のボランティアが来て助かった。地域として、今後おまつりを継続していくためにも、このような体制を自分たちで構築できるようにしていきたい」「今回いきセンと一緒に企画をやってみたことで、受け入れ人数の限度が分かり、今後の参考になった」という運営面での前向きなフィードバックも得られました。

また、2つの体験活動から通常活動へ継続して参加する姿が見受けられました。

4 今後の抱負

今後も多様なテーマ設定と伏見区内の幅広いエリア展開を行い、「一歩踏み出す」参加機会を創出していきます。

今回の成果を踏まえ、特に地域活動未経験者の参加割合を維持しつつ、本事業へのリピート参加率を向上させることで、参加者がより多様な活動に触れる機会を創出していきます。また、体験を通じて継続的な活動を希望する方に対しては、次回以降のスムーズなコーディネートができるよう、受け入れ団体との連携体制を強化します。

参加者の属性については、定年退職後のシニア層の活動を後押しするという方針を継続しつつ、今後はさらに幅広い世代の「一歩踏み出す」を支援できるよう、ターゲットに応じたアプローチを検討していきます。





【事業名】新しいチャンスを生み出すマッチングプロジェクト

事業の概要

開催日時：2025 年 5 月～2026 年 2 月（全 12 件）

開催場所：羽束師児童館、板橋児童館、納所城之内児童館、青少年活動センター、東高瀬川
包括支援センター、フルール向島、向島集会所、深草商店街

参加人数：12 団体

協力団体等：なし

予算／決算：予算：1,800,000 円 ／ 決算：1,776,522 円

1 事業内容

地域での活動の中には、毎月定期的に実施している居場所や、季節イベントがあります。地域主催者側は、工夫を凝らして内容を実施していますが、自分たちだけで出演者を探す事や新しい内容を考えるには限界があります。

一方、センター利用団体のなかには、地域で活動を発表する機会を探しているケースも少なくありません。活動を発表することを目標に日々の練習を頑張ることができるという声もよく聞かれます。

そこで、活動メニューに悩む地域団体と活動の機会を求めるセンター利用団体を結び、新しいつながりを築く取り組みとして昨年度に続き、今年度も実施しました。今年度は15件のご相談をいただき、12団体をお繋ぎしました。

2 準備段階での工夫

地域主催者の方が、連携内容を具体的にイメージできるよう、過去の事例をまとめた冊子「ふしみむすぶっく活用レポート」を持参し、直接対面での説明を行いました。

また、お繋ぎしてからは必ず事前に顔合わせや打ち合わせを実施しました。特に打合せから本番までに期間が空くイベントにおいては、その間に地域側・利用団体側の双方へ「準備で困っていることはないか」「新たに生じた確認事項はないか」など、当センターが間に入ってこまめなヒアリングとフォローアップを徹底しました。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

地域主催者の企画・運営の負担を軽減すると同時に、市民活動団体の発表機会を創出することで、地域内に新たな交流と活力を生み出すことを事業効果としています。

昨年度の課題を踏まえ、事例冊子の活用や丁寧なヒアリングを通じてより多くの方へ情報を届け、マッチングの質と量の拡大を目標としました。

さらに、マッチング後の継続的な地域参加を促すアフターフォローの実施も目指しました。

(2) 事業実施による目標の達成度

今年度は、15件の依頼がありました。そのうち6件が新規依頼となりました。また、一度依頼のあった地域から別の団体へのリピート依頼が来るなど、地域との継続的なつながりに発展しています。

今年度初めてお繋ぎした団体からは、自身の活動のモチベーションや意欲向上に繋がる声を多くいただきました。

例えば、過去にご自身で児童館に依頼して断られた経験を持つ団体が、今回センターを通じて「子どもたちにダンスを教えたい」という長年の夢を実現させ、「今後も児童館で教える活動を行っていきたい」とさらなる活動意欲に繋げることができました。さらに、コロナ禍を経

て久しぶりに高齢者施設で出演した吹奏楽団からは、「団としても大きな一歩になった」との声をいただいています。団体単独ではハードルが高い地域への出演も、センターが間に入ることで実現し、市民活動と地域をつなげることができました。

4 今後の抱負

今年度ヒアリングを通じて、「地域で活動したい」という想いを具体的に把握することができました。次年度も引き続きヒアリングを重視し、団体と地域の双方にとって満足度の高いマッチングを追求していきます。また、これまでの依頼は既存の関係性や直接の交渉によるものが中心でしたが、今後は自治会や社会福祉協議会といった組織に属していない層へも広く情報が届くよう、広報の裾野を広げていきます。具体的には、地域のイベント等での出張ブース出展などを積極的に行い、新たな連携を広げて行きたいと考えています。





【事業名】多世代交流拠点きょういく基地プロジェクト

事業の概要

開催日時：2025 年 5 月～2026 年 2 月

- ・健康まーじゃん塾：20 回
- ・筋トレ体操(足上げ)：20 回
- ・コグニステップ(認知症予防)：9 回
- ・いきいき筋トレ(ロコステップ)：9 回
- ・ハンドメイドサロン：10 回
- ・おしゃべり手芸サークル：9 回
- ・歌声サロン：10 回
- ・おしゃべりサロン：7 回（新規）
- ・にこにこルーム：10 回

開催場所：伏見いきいき市民活動センター サロン

参加人数：・健康まーじゃん塾：延べ 592 名

- ・筋トレ体操(足上げ)：延べ 508 名
- ・コグニステップ(認知症予防)：延べ 97 名
- ・いきいき筋トレ(ロコステップ)：延べ 611 名
- ・ハンドメイドサロン：延べ 64 名
- ・おしゃべり手芸サークル：延べ 33 名
- ・歌声サロン：延べ 253 名
- ・おしゃべりサロン：延べ 20 名
- ・にこにこルーム：延べ 20 名
- ・自由来館：延べ 188 名

協力団体等：なし

予算／決算：予算：1,120,000 円 ／ 決算：1,092,241 円

1 事業内容

今年度も、シニアの得意なことを活かし、仲間を募って活動をスタートさせる「〇〇さんの日」を継続して実施しました。今年度は 7 つのグループが活動しました。一方的に教える形ではなく、参加者同士の交流を大切にしたい運営を行っています。これまでの活動を継続しつつ、さらに良い変化を生み出すために、各グループの代表者に集まっていただき、一年間の振り返りや思いを共有しあう「リーダー交流会」を開催しました。

また、今年度からの新たな取り組みとして、月に一度、ロビーで少人数の茶話会を行う「お

しゃべりサロン」を始動しました。

さらに、昨年度に引き続き、未就学児親子の居場所づくりとして「にこにこルーム」では日常でもサロンをご利用いただけるよう絵本の読み聞かせを行うイベントを実施しました。

2 準備段階での工夫

各グループのリーダーやメンバーとのコミュニケーションを丁寧に行いました。日々の活動の様子だけでなく、活動中の困りごとのヒアリングに努めました。

例えば「手芸のネタに困っている」という声に対しては、スタッフが一緒にネタを探して情報提供を行うなど、継続的な活動に向けたサポートを行いました。歌の活動では「リクエストボックス」を設けてメンバーが歌いたい曲を募るなど、参加者が主体的に楽しめる工夫を取り入れました。

3 事業実施による効果・達成度

（１）当初の事業効果、目標等

シニアの方が今までのスキルや得意を活かして、主催する場づくりをサポートすることを目指します。また、サロンから一步踏み出し「自立的に活動するシニアグループ」への成長を目指しました。また、窓口となる新たな取り組みを通じて、参加者の間口を広げることを目標としました。

（２）事業実施による目標の達成度

今年度から実施した「おしゃべりサロン」は、気軽に立ち寄れる場として機能し、多様な情報交換の場として価値を感じていただけました。実際に、普段一人暮らしをされており「何か始めたい」という思いを抱えて初めて来館された方が、このおしゃべりサロンを入り口として継続利用に繋がり、現在では４つの異なるグループ活動に参加されるなど、活動の幅を大きく広げる事例も生まれました。

利用者の方から、「ここは”指導”のような堅いものではなく、各々がゆるく楽しく過ごせる心地よい空間です」という声をいただきました。当プロジェクトが、ご自身のスキルを無理なく活かせる大切な居場所として機能していることが確認できました。

「ハンドメイドサロン」は、今年度から材料準備等を含めた自主運営へと移行しました。当初は準備段階や役割分担について苦悩する場面もありましたが、運営の方向性について主体的に協議されるなど、活動の自立に向けた着実な歩みが見られました。

4 今後の抱負

気軽な窓口として定着し始めた「おしゃべりサロン」については、利用者自身が主体となって企画・運営する「自立したグループ」へと発展していけるよう、サポートしていきます。

また、既存グループへの新規参加者を継続的に受け入れつつ、「何か始めたい」と気軽に相談できるような広報活動をさらに強化します。今後はシニア層に留まらず、多世代が交流できる「誰もが使える開かれた場所」として、より幅広い年代へ向けた情報発信と場づくりを進めていきます。





3. 利用料金の収入実績及び管理運営に係る経費の収支決算

1 利用料金の収入実績

令和7年度実績：4,400,460 円（前年度比：102%）

内訳 会議室等：4,349,000 円

附属設備：51,460 円 ※自主事業分を除く

スモールオフィス：なし

2 管理運営に係る経費の収支決算

別紙収支決算書のとおり

4. 施設の利用者満足度の把握

1 利用者満足度の把握状況

（1）全センター共通窓口サービス調査

【実施時期】令和7年11月実施

【調査項目】窓口サービス

(2) センター独自アンケート

事業実施時にアンケートを実施

2 利用者満足度把握の結果

(1) 全センター共通窓口サービス

	満足	普通	不満	無回答
① 案内表示の わかりやすさ	65.4%	33.7%	1%	0%
② 挨拶や声かけ	87.5%	12.5%	0%	0%
③ 身だしなみ	86.5%	13.5%	0%	0%
④ 表情や態度	89.4%	10.6%	0%	0%
⑤ 言葉づかいや 説明の丁寧さ	89.4%	10.6%	0%	0%
⑥ 説明の わかりやすさ	80.8%	19.2%	0%	0%
⑦ 整理整頓	83.7%	16.3%	0%	0%

(2) センター独自アンケート

○実施なし

3 意見等への主な対応状況

- ・ 昨年の窓口アンケートから、ダンス用の大型かがみを増設しました。
- ・ 玄関口の腰掛を置きました。
- ・ 空調故障により、夏場は扇風機の貸し出し、冬場はヒーターの貸し出しを行いました。

5. 指定管理者による管理運営業務の自己評価

- ・ 取り組んだ事業等の総括を記載してください。

提案事業などで、利用団体の方の出演の場を提供するコーディネートに力を入れました。

事務室のレイアウトを変更し、利用者、地域の方との交流スペースを設けました。

- ・ 今後、解決すべき課題等があれば記載してください。

建物の老朽化により、故障個所が増加しているので、元に戻すことより、軽微で以前の環境に近づける修繕方法を考えます。

- ・ 次年度に向けた対応について記載してください。

次年度は、利用者や地域の方々のコミュニケーションを密にとりながら、伏見に必要とされている取り組みを検討、実施していきます。

6. その他施設の管理運営に関する重要又は異例な事項

1F 事務室および 2F 音楽室の空調が故障しました。冬場はストーブの貸与で乗り切りましたが、夏場の気温上昇への対応については、早急に検討すべき課題です。